

家庭教育力の強化を図ろう

～一緒に考えよう、電子メディアとの付き合い方～

豊橋市立牟呂小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、豊橋市の南西部に位置し、豊川と柳生川に挟まれたところに位置している。校区の西端は、豊橋港のある三河湾に面している。明治時代に干拓された神野新田地区があり、米作りが盛んに行われていた。昨今では、港の開発や道路の開発によって産業が盛んになり、大型店舗も多く出店している。地域開発に伴い、新興住宅地も増加した。全校児童630名のうち、外国にルーツのある児童も45名と多く在籍している。個性豊かな子どもたちの自律を支える学校をめざしている。

2 研究のねらい

豊橋市では、市内全校で「メディアコントロールチャレンジ」に取り組んでいる。本校でも、子どもたちが毎日心身ともに健康で安全な生活を送っていくために、「メディアコントロールチャレンジ週間」を設け、全校児童で取り組んでいる。電子メディアは、子どもたちの学習や生活の中にあり、便利な環境を与えてくれている。しかし、使用頻度が増えるにしたがって、多くの課題がみられるようになってきた。そこで、電子メディアとの上手な付き合い方について、保護者をはじめて考え、その方法を発信していく。

3 研究の仮設

P T A活動を通して、保護者にも「メディアコントロールチャレンジ」活動を行えば、電子メディアとの上手な付き合い方への意識が高まるのではないか。

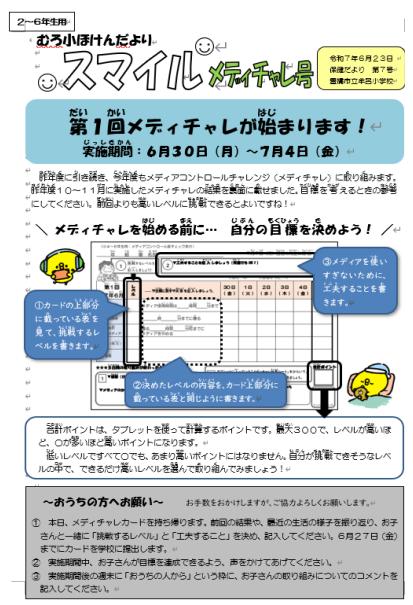
4 研究の方法

保護者にメディアコントロールの取り組み期間を知らせる案内を配布し、電子メディアとの上手な付き合い方について共に考えていただく機会をつくる。また、保護者代表の方に学校保健員会に出席していただき、他のP T Aの方々に広めていただく。

5 研究の実践

(1) メディアコントロールチャレンジの実施

6月にメディアコントロールチャレンジを行った。まずは、事前にメディアを使う時間について親子で話し合い、決めた目



メディアコントロールについての保健だより

標時間を用紙に記入してもらった。保護者には、保健だよりで趣旨ややり方の周知を行った。メディアチャレンジ後の感想では、「親子でスマホを使用する時間について考える時間がもてた」「寝る前には、テレビを見ないようにした」という保護者の方や子どもの声を聞くことができ、意識を図るうえでよい機会になったと考える。

（2）学校保健委員会での取り組み

メディアコントロールを実施後、「牟呂っ子の健康を考える～電子メディアとの付き合い方を考えよう～」というテーマのもと、学校保健委員会を開催した。主任児童委員やP T Aの方を交え、「メディアコントロールチャレンジ後の実態を知る」「電子メディアの使用時間を減らすために自分たちに何ができるか考える」というテーマのもとグループ協議を行った。最後に、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の方から指導助言をいただいた。



保護者の方を交えたグループ協議の様子

メディアコントロールチャレンジ後の保護者の方の感想

- ・このチャレンジのおかげで、普段よりは意識していると思う。
- ・これからも一緒にがんばっていきたい。
- ・今後もできることは続けて少しでも習慣になってくれればと思った。



学校医の方のお話

6 研究の考察

学校保健委員会後、保健委員会の子どもたちが、学校保健委員会での協議の結果を各学級に伝えた。各学級で、真剣に話を聞く子どもたちの姿があった。また、保護者の方から、電子メディアの長時間使用を控えたり、使用のルールを決めたりしたいというコメントをいただき、各家庭で協力して取り組んでくださっている様子をうかがうことができた。「メディアコントロールチャレンジ」への取り組みというきっかけを学校が用意したことは、一定の効果があったと考える。

7 成果と今後の課題

学校だけで行うのではなく、保護者にも協力を呼びかけることで、より一層子どもの取り組みによる兆しがみられるようになったと感じる。学校と保護者が協力していくことが、家庭教育力の向上につながっていく。子どもたちの健やかな成長のために、これからも、家庭と学校が手を携えることができるよう努めていきたい。